

# 豊橋市長が両親に謝罪

記 西野 友章

浜松市の浜名湖で2010年6月、野外活動中のボートが転覆し、愛知県豊橋市樟南中学校1年の私の娘、西野花菜(当時12)が死亡した事故で、豊橋市の佐原光一市長は16日、市役所で私たちと面会し、謝罪しました。事故後、市長が遺族に謝罪したのは初めてです。

佐原市長は「尊い命が失われ、遺族に多大な心労をかけたことを謝罪します」と述べました。

私たちが市などに損害賠償を求めて起こした民事訴訟で、10月24日に和解が成立しました。佐原市長は私たちが持参した花菜の遺影に手を合わせ「今後、このようなことがないように努力していきたい」と述べました。

市長が謝罪会見で「市には賠償金を支払う法的責任はなかった」と発言したことについて、私は「市が法的責任を認め、現場の先生がその責任を感じてこそ再発防止につながるのでは」と質問。佐原市長は「学校間での情報共有など和解条項に合うように今後、対応していきたい」と話しました。

【2012年11月16日中日新聞参照】



# ボート事故、豊橋市長謝罪

## 父親、防止策を今後注視

記 西野 友章

浜名湖ボート転覆事故で水死した豊橋市立中学校の私の娘、西野花菜(当時12)の両親に対し、佐原光一市長が16日謝罪しました。だが、「事故の直接の原因は私どもでない」と主張する佐原市長に、私が何度も質問して市長の認識をただしました。

「目的は再発防止。市長の認識にこだわっていると次に進めない」と自分の中で無理やり理解させている」。市長との面会后、私は報道陣に胸中を語りました。

謝罪の場で私は市長に「これまで責任を否定してきたが、どう変わったのか」と質問。市長は「認識は変わっていない」と繰り返しました。質問を続けようとする私に市職員が「以上で終わらせて頂きます」と退席を促しました。予定時間より5分ほど前でした。

私は「学校(の対応)が不十分だったという認識に立って再発防止に取り組むべきだ」と思います。今後は、再発防止についての公開質問状を出すなどして、市の取り組みを見守るつもりです。

【2012年11月16日朝日新聞参照】



## 豊橋市長 遺族に謝罪

### 浜名湖のボート事故再発防止誓う

記 西野 友章

浜名湖で2010年6月、県立三ヶ日青年の家（浜松市北区）で野外活動中に手こぎボートが転覆し、豊橋市立章南中一年の私の娘、西野花菜（当時12）が死亡した事故で、豊橋市の佐原光一市長は16日午前、私たち両親と市役所で面会し、「癒すことのできない悲しみと多大な心痛を与えた」と謝罪しました。

佐原光一市長は、娘の遺影に頭を下げ再発防止を誓いました。私は佐原市長に和解条項の朗読を求め、「学校側の安全管理が不十分だったとの認識の上で、再発防止の取り組みを進めてほしい」と強く要望しました。

私たちは今月5月、生徒の安全に配慮する義務を怠ったとして豊橋市と静岡県、施設の指定管理者「小学館集英社プロダクション」（東京都）の3者を相手に損害賠償を求めて提訴し、10月24日に市、姿勢管理者と和解しました。市は公式の場で謝罪し、指定管理者は賠償金を支払うことなどで合意しました。県とも12月下旬に和解が成立する見通しです。

【2012年11月17日静岡新聞参照】

## 豊橋市長が遺族に直接謝罪

### 父親「一つの区切り」

記 西野 友章

浜松市の浜名湖で2010年6月に野外活動中のボートが転覆し豊橋市立章南中一年の私の娘、西野花菜（当時12）が死亡した事故で、豊橋市の佐原市長が16日、初めて遺族に直接謝罪しました。私は取材に「一つの区切り」と述べ、今後再発防止に取り組んでいく考えを示しました。

佐原市長は、私たちが持参した花菜の遺影に手を合わせ、頭を下げました。私の求めに応じてA判、3ページの和解調書全文を遺影に向かって読み上げました。私は再発防止に向けた取り組みを約束することも求めましたが、市長は安全管理マニュアルの改訂や教職員研修など、和解条項に示された内容を述べるにとどめました。

謝罪を受けた後、私は「もう少し明確な言葉で再発防止を約束してほしいかった。調書を読んでもらって約束してくれたと思ったので少し残念だ」と話しました。事故原因の究明や再発防止を目的に署名集めや訴訟などに取り組んできたことを振り返り「一区切りして自分たちの生活を進めたい」と話しました。

事故に関するホームページの立ち上げや市民報告会の開催、必要があれば市に質問状を提出して公開するなどの情報発信は続けていきます。

【2012年11月17日中日新聞参照】

